



第49号

令和7年3月1日発行
特定非営利活動法人
日本健康太極拳協会公認
楊名時八段錦・太極拳
鹿児島県支部

発行人 松崎 伸男

6年ぶり！「九州ブロック鹿児島県支部(30周年記念)大会」

你好（ニイハオ）。早春の候、皆様方には八段錦・太極拳で健やかにお過ごしのことと存じ上げます。また、日頃より県支部活動のご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年10月に6年ぶりに九州ブロック鹿児島県（30周年記念）大会が開催されました。遠路より楊進理事長と楊崇師範、各地域のご来賓をはじめ多数の会員のご参加をいただき、心から感謝御礼申し上げます。大会の開催に伴い同心協力でご尽力いただいた大会実行委員長をはじめ実行委員メンバーと会員の皆様が一丸となり、楊名時太極拳の意志を繋げていくことができ、厚く御礼申し上げます。大会では柔らかな雰囲気の中で、イトブリーンの記念シャツを贈呈し、会場常用で一体感を高めての演舞と師範審査では5名の受験者が見事合格され、笑顔の記念撮影。30周年記念誌の発行や功労者の海江田順一郎氏へ記念品贈呈が行われました。

初代支部長の海江田名譽顧問には96歳の元気なお姿でご挨拶をいただき、会場の皆様へ感動と長寿への希望をいただきました。海江田名譽顧問の伝記に生来虚弱な体質で60歳で太極拳を始められ、初代支部長として支部活動に貢献され、楊名時師家との深交もうかがわれ、師家が尊敬する鑑真和上と太極拳に関する思いも多数掲載されているようです。

支部長 松崎 伸男

鑑真和上は日中文化交流のため、度重なる苦勞の末の失明も乗り越え6度目の渡海で九死に一生を得て九州の坊津秋目の地に上陸し、仏法の戒律を伝えた日本の律宗の開祖であり、上陸地に鑑真記念館が建立され境内に中国で取れた大理石の鑑真記念像と師家が数回来訪されて1988年に記念植樹されたフロガネモチが年輪を重ね強風にも耐え力強く成長しています。また、鑑真記念館では毎年上陸日の12月20日に「鑑真和上を偲ぶ集い」が行われ、奈良の唐招提寺の長老を招いての法事と有志一同による楊名時太極拳の奉納演舞が行われています。これからも師家の鑑真和上の強い信念の学びと、太極拳の中に鑑真和上の心を生かし、心の守り本尊にしていただきたいの思念を未永く繋げていきたいと思っています。

今年は師家のビッグイベントとして「楊名時師家生誕100年記念全国大会」が4月24日に開催され、又、熊本では「九州ブロック記念大会」が6月15日に開催されます。これを機に会員の皆様が共に良縁の和を広げ、楊名時太極拳の普及拡大への輪の広がりを期したいと存じます。会員の皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

謝辞

健康太極拳随想

継続することの素晴らしさ

西地域 大平 須美枝

医療に携わる私は、患者さんからの希望で太極拳を学び始めました。

人生とは出会いと言われますが、良き師と良き同朋との出会いから、二十七年も継続ができましたことに心から感謝しています。

たくさんのご縁と学びを得ることができたこの二十七年は私の人生の宝でもあります。最も顕著に体感したことは、腹式呼吸が身についたことで、自律神経が調い免疫力が向上し、心身のバランスがとても良くなったように感じます。「調心、調息、調身」を実感していることは、私にとって大きな喜びです。

三年前からは、稽古の中で立神（站樁功）に時間をかけ、感覚力を得る訓練になると確信しました。そして、感覚力を磨くことにより自分の心と体を客観視する心が養われていくことを実感できつつあります。

「自分を見つめる心の育成により、太極拳の技が身につく」との師家の訓えの意味を理解できたように思います。また、楊名時太極拳の五則は、まさに自らの心を見つめ、育てることの大切さを説かれているものと感じます。

医療を通じて太極拳と出会い、体だけではなく、心を育むことの大切さを学びました。

これからも、自らの心と体を見つめながら、太極拳を愛する仲間達と共に「太極の道」を楽しみつつ歩み続けたいと願っております。